

評価

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

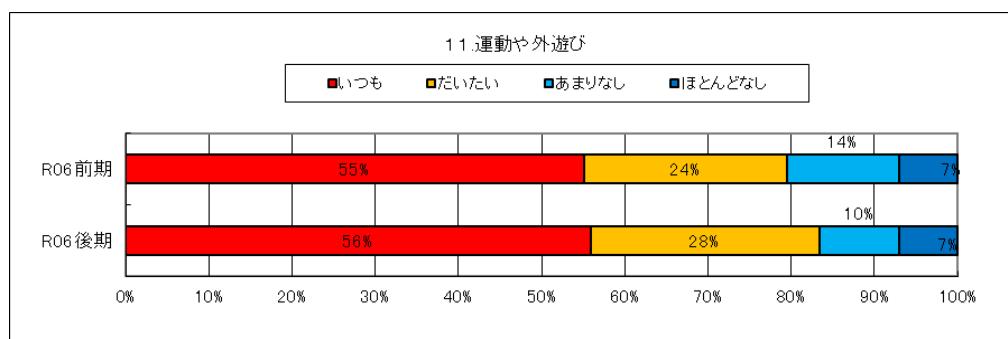
III 健康と体力

児童の状況	自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント	
健康や体力向上への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	良好	良好	①子どもたちが一番苦手としている食材は野菜である。学校独自で「野菜」とか「魚」など特定の「〇〇克服週間」みたいな取り組みができるものか。②運動や外遊びを積極的に行う児童が多くよい状況と考える。普段の運動から体力テストの低位データの克服につなげられないだろうか。③メディアコントロールは家庭の協力が得られているようで好ましい感じる。児童の学校での状況を保護者に伝えながら継続させたい。④感染症や熱中症などの対策が大変よく実施されているようありがたい。
	年度	良好	良好	①児童の体力向上に向け、工夫ある取り組みに期待したい。②「肉は食べるが野菜は食べない」という傾向は変わらない。今後も放送や講話等でバランスのとれた食事の摂取に向け取り組んでいただきたい。③メディアコントロールは日常的な習慣形成を念頭に持続的な意識付けをお願いしたい。④学校の感染症対策を保護者が理解してくれていない残念な点があるようだ。小学校は感染が広がりやすい空間や年齢集団であるがゆえの対策ということを丁寧に説明し、独自の取り組みに理解を求めたいものだ。
【前期(一年度)】	<p>①給食センターの栄養教諭を招いて、食に関する指導を行った。2学期までに全学年で実施する。学年に合わせた指導を行うことで、自分たちが食べている物にどんな栄養があるか、なぜバランスよく食べることが大切なのか知ることができ、苦手だった物も少しは食べようという意識が高まった。</p> <p>②運動会に向けて「ジョギングナウ」や「ラジオ体操」、運動する楽しさを味わわせるための「〇〇チャレンジ」など、チャレンジ運動委員会が主体となって体力向上に向けた取組を行った。また、「教育長杯ロープジャンプX」には、3年生以上が参加した。記録更新を目指しつつも、仲間とともに協力し、運動することの楽しさを味わうことができるることを重点におきながら取り組んだ。運動や外遊びを積極的に行う児童が多く、「いつもしている」「だいたいしている」と答える児童が85%を占め、体を動かす意欲が高い状態を維持できた。</p> <p>③メディアコントロール週間では、サミットリーダー委員会、すこやか保健委員会を中心に、全校児童に呼びかけを行った。子どもたちが自発的に活動したり、東中学校区で一斉にメディアコントロールに取り組む日が設定されたりしたこと、家族で取り組もうとする意識が高まった。また、9月のメディアコントロール週間では、小中幼保の連携として大館カトリックこども園と有浦保育園も参加した。</p> <p>④休日明けの2日間はマスクデーとし、感染予防を行い、暑い時期は熱中症対策を優先している。</p> <p>＜後期の取組＞</p> <p>①大館食べっこ委員会が、給食の献立に使われている食材や栄養について毎日放送で伝えている。バランスよく食べることなどへの意識が高められるよう今後も継続していく。(ワンダフル給食・もりもり食べよう運動・ありがとう給食)</p> <p>②新体力テストのデータを基に、体力の向上を図る運動を取り入れ、体育の授業で実施する。また、チャレンジ運動委員会を中心とした、楽しみながらできる体力つくり運動を実施していく。外遊び、室内遊びを積極的に呼びかけていく。</p> <p>③2学期、3学期にもメディアコントロール週間を設ける。大館市の取り組みと合わせてメディアコントロールへの意識を高め、望ましい生活習慣が醸成されるよう継続して取り組んでいく。</p> <p>④新型コロナウィルスやインフルエンザなどの感染症対策の意識付けをしたり情報発信をしたりするなどの保健指導を継続していく。</p>			
【年度(一次年度)】	<p>①体力テストのデータを基にして、平均が下回っている項目を中心に、体育の授業で補強できる運動を提案した。来年度は縦割り班で新体力テストを行う予定である。チャレンジ運動委員会が中心となり、3学期は冬期間の体力づくりの一環として、なわとび運動を実施する。</p> <p>②給食の献立に使われている食材や栄養について毎日放送することで、食材に关心をもつ児童が増えた。3学期は、食事のマナーについて放送で呼びかけ、意識付けを図った。</p> <p>③学校保健委員会では、保護者の悩みを全体で共有し、学校医や薬剤師からアドバイスをいただいた。来年度は幼保小で連携してメディアコントロールの取組を行う予定である。</p> <p>④学校の感染状況を保護者へ発信し、子どもたちがマスクを着用したり手洗い・うがいを行ったりと感染症対策をしている。今後も情報発信をするなどの保健指導を継続していく。</p>			

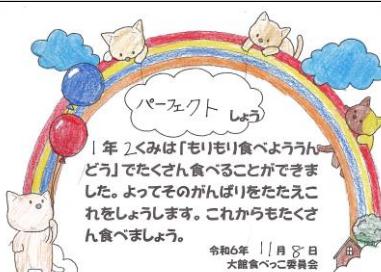
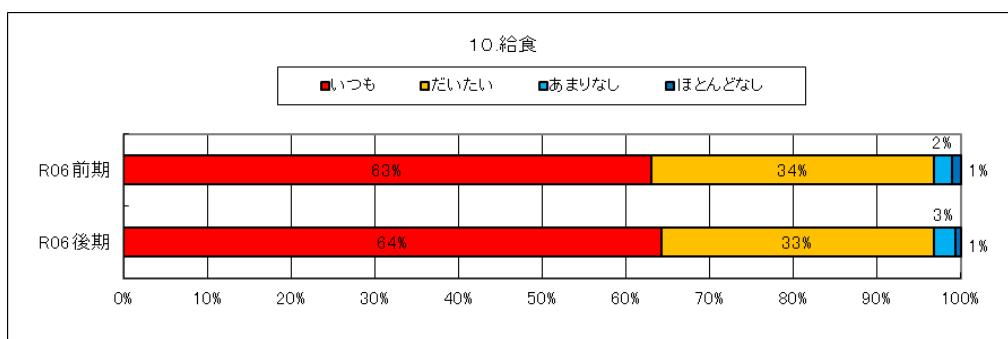
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
6 保健指導	(6)健康な生活習慣の形成	保健指導(健康観察・清潔検査等), 清掃活動の充実, 感染予防の徹底	4	4
		給食指導, 食に関する指導の実施		
7 体力の向上	(7)継続的な体力つくりの実践	体力向上のための指導の充実	4	4
		体力テストの実施と分析・活用		
8 メディアコントロール	(8)適切なメディアコントロールの実践	メディアコントロール週間の実施と分析・授業(指導)への活用	4	4

※学校教育アンケートから

(児童)



(児童)



今年度も1、2年生は有浦山で、3～6年生は有浦山と大鰐温泉スキー場において、スキー教室を行った。学年が進むごとに滑ることに慣れ、技能の高まりを感じられた。外での雪遊び、室内遊びや縄跳び運動など、冬でも体を動かすことを奨励している。

大館食べっこ委員会による「もりもり食べよう運動」では、学級のめあてやお魚の日を設定したり、学級でがんばったことを委員会で表彰してくれたりしたこと、子どもたちの食への意識を高めることができた。



長期休みの健康カードには、生活リズムをくずさないためにメディアのめあてを設定できるように工夫している。感染予防のため、週明け2日間はマスクをつけることになっている。普段から自分で感染予防を心がけることができるよう、学級に掲示物を用意し、意識を図った。